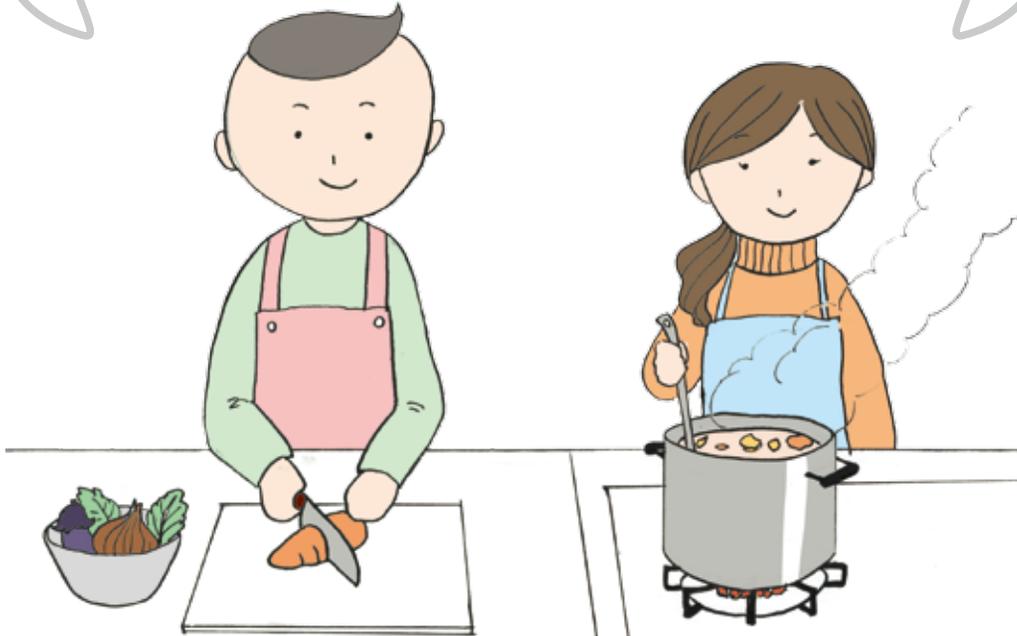


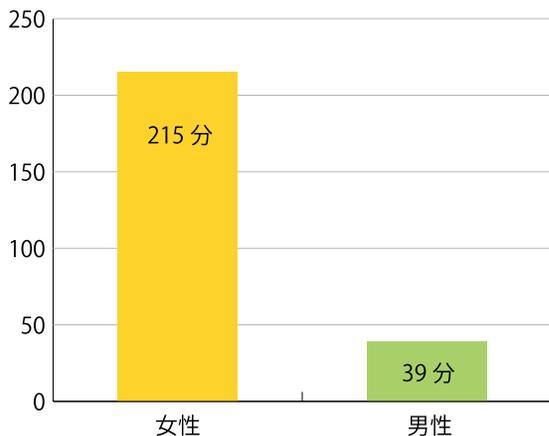
家事の協力はできていますか？

あなたは、次の絵をみてどう思いますか？

それぞれ、何といているか(思っているか)書き込んでみましょう。



京都府の男女別 1日の家事関連時間
(週全体平均)



男性の1日の家事関連時間
(週全体平均)

1位	長野県	51分
2位	徳島県	50分
3位	島根県	49分
4位	宮城県	48分
⋮		
⋮		
32位	京都府	39分

総務省「平成23年社会生活基本調査」より作成
※家事関連時間は、家事・介護・看護・育児・買い物時間の合計
10歳以上の家事関連時間の平均値

総務省「平成23年社会生活基本調査」より作成
※家事関連時間は、家事・介護・看護・育児・買い物時間の合計
10歳以上の家事関連時間の平均値

男女が共に考え、共に決めよう

下の絵をみて、あなたはどのように思いますか？

生徒会



議会



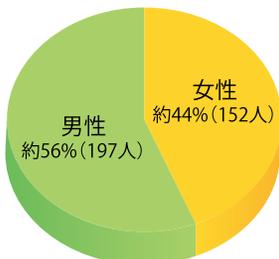
会社



家庭

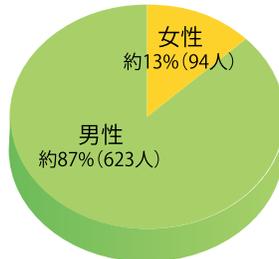


スウェーデンの国会議員 男女の割合



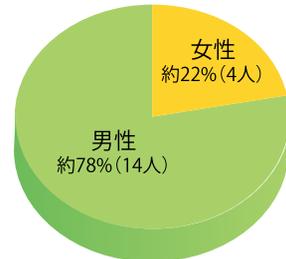
内閣府「女性の政策・方針決定参画状況調べ」
(平成 29 年 1 月)より作成

日本の国会議員 男女の割合



内閣府「女性の政策・方針決定参画状況調べ」
(平成 29 年 1 月)より作成

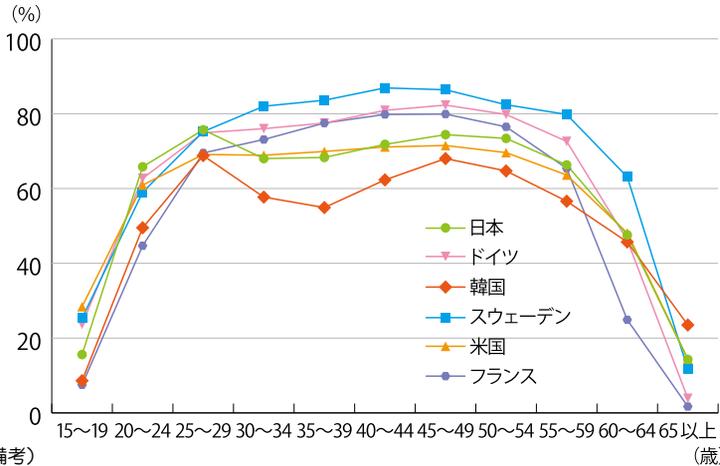
綾部市の市議会議員 男女の割合



平成 29 年 3 月調べ

働く人たちを支える仕組みと課題

女性の年齢階級別労働力率(国際比較)

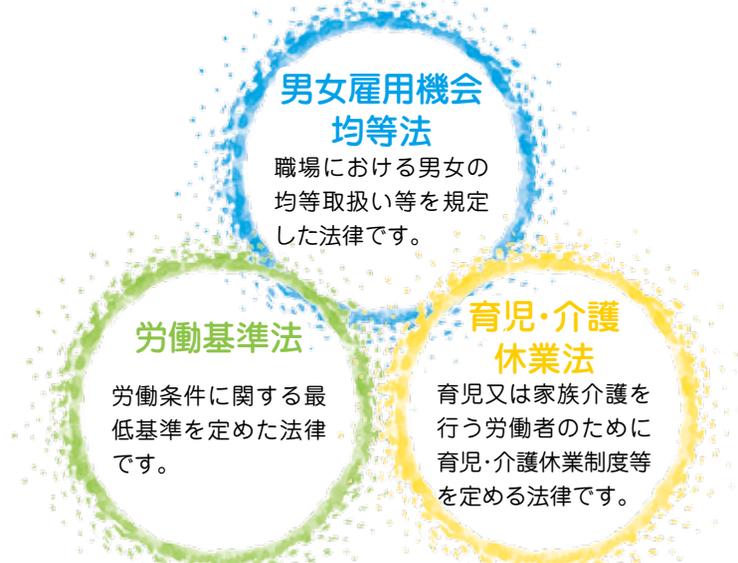


左のグラフは女性で働いている人の割合です。日本と韓国のデータを見ると30歳代をくぼみとするM字カーブを描いています。その理由は、多くの女性が結婚や出産などで仕事をやめているからです。しかし、これからの社会を支えていくためには女性が働くことが、より重要なことになってきています。

では、男女がともに安心して働いていくためにはどのような環境や仕組みが必要なのでしょう？

- (備考)
- 1.「労働力率」は、15歳以上人口に占める労働力人口(就業者+完全失業者)の割合
 - 2.米国の「15~19歳」は、16~19歳
 - 3.日本は総務省「労働力調査(基本集計)」(平成27年)、その他の国はILO「LABORSTA」より作成

働く人たちを支える法律



上のグラフで、欧米諸国ではM字のくぼみがありませんでした。

それは

「仕事と子育ての両立支援が充実している」

「女性が働きやすい環境が整備されている」

「女性も働くことが当たり前という意識が社会にある」

などの理由が考えられます。

日本の育児や介護をサポートする体制は十分でしょうか？

考えてみよう！ 働く人を支えるために必要なこと

違いを認め、個性を生かそう

人と話すのが
好き

歴史が好き

音楽が好き

寂しがりや

負けず嫌い

努力家

スポーツが好き

**みんなが生きやすい社会は、
自分も生きやすい社会です。**

人見知り

料理が好き

植物を育てる
のが好き

「自分らしくある」と、「自分中心」は違います。

大切なのは、ルールを守りながら、個性を生かしていくことです。

学習を終えて